



石井病院

じんけいクリニック

Now Vol.121

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2018.4

石井病院 4月からの「整形外科」診療についてのお知らせ

当院では、4月より「**整形外科**」に非常勤医師として 多田 健治 先生 が着任し、下記の診療体制となります。

<多田 健治 医師 プロフィール>

昭和51年 京都大学医学部卒 医学博士

京都大学附属病院、神戸市立中央市民病院等の勤務を経て、平成30年4月より石井病院非常勤医師として勤務 現在に至る ※ 坐骨神経痛の神経ブロックを得意とする



医師
ただ けんじ
多田 健治

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00 ~ 12:00		多田 健治 (4/10~)	美馬 弘	森本 一男		多田 健治 (4/14~)

【診療のご案内】

交通事故や転倒による打撲、捻挫、骨折などのようなケガだけでなく、腰痛、肩こり、四十肩、五十肩などの慢性疾患や変形性膝関節痛、慢性関節リウマチ、骨粗しょう症等といった様々な症状でお悩みの方はお気軽にご相談下さい。

また、リハビリテーション科と常に連携し、手術後のリハビリなどきめ細かく丁寧な治療を行うよう心がけております。



石井病院 健康情報 加齢による骨の変化に注意しましょう！

年齢を重ねると、顔にしわができるように、あるいは白髪が出てくるように、骨にも変化が現れてきます。このような加齢変化を、専門用語では変性病変とか退行性変化といえます。

中高年の人たちの膝の痛みを引き起こす代表的な病気が「**変形性膝関節症**」です。

膝の関節を形成している骨や軟骨がすり減ったり、欠けたり、変形したりして、膝の痛みや動きに制限などがみられる病気です。症状が進行すると、関節内にある関節液という液体が過剰に分泌されて、膝に水がたまることもあります。これらの症状は加齢による老化現象の一つではありますが「**変形性膝関節症**」は治療可能な病気でもあります。

膝関節の変形は、気付かないうちに進行しています。加齢により徐々に皮膚や関節、軟骨の弾力性が失われていき、それが骨や軟骨の摩耗につながります。毎日鏡を見て、肌の弾力が無くなってきたと感じ始めたころに、関節軟骨の老化も始まっているのです。

初期には膝のこわばり感や、歩き始め、階段の昇降、長時間の歩行、立ち仕事のあとなどに痛みが起きます。変形が進行するにつれて動きが制限され、50代~60代になって、膝が思うように曲がらない、歩くと痛いなどの症状が現れてきます。また、O脚やX脚といった変形が進行することがあります。

初期の治療では、サポーター、塗り薬、痛み止め等の保存的治療を行います。膝に関節液が溜まって痛みがある場合は注射で液を取り除いたり、炎症止めの注射を行います。日常生活に支障をきたすほど重度の変形が見られる場合は人工膝関節手術を行います。

少しでも早い段階で治療を行うことが肝心です。気になる症状があればお早目に受診してください。





じんけいクリニック 過去3年間のじんけいクリニック血液透析診療を振り返って

2015年春、医師として丸25年、年齢満50歳の節目の年、わたくしは自らのこれまでの泌尿器科医師キャリアの集大成として、ここ、じんけいクリニックに院長職として着任させていただきました。

その後、今日までの3年間において行ってきた透析診療内容について、少しばかり述べさせていただきます。



じんけいクリニック

院長

ふくし よしひこ
福士 剛彦

基本的に泌尿器科外来、血液透析治療が当院の柱ですが、透析治療においてこの3年間で新たに構築された内容は、

- ① 連日連夜の回診での患者さんとの信頼関係の構築
(特にこれが、最重要とと思ってきました)
- ② ウルトラピュアな水の作製及び管理
- ③ 透析ベッドサイドコンソール38台全てで、オンライン血液透析濾過を可能に
- ④ 酢酸フリーの透析液(カーボスター)を全患者さんへ採用
- ⑤ 夜間を含めた24時間緊急透析可能なシステム構築
- ⑥ バスキュラーアクセス手術(PTA、AVF、AVG、上腕動脈表在化術、長期留置型カテーテル挿入術)の全てを自前、かつ祭日を含めて緊急の場合においてでさえ即日施行可能なシステム構築
- ⑦ 被爆しない、造影剤不要のエコー下PTAの確立(石井病院でなく、じんけいクリニックでも可能に)
- ⑧ できるだけカテーテル留置を行わず、中心静脈1回ごと刺し抜き穿刺技術の構築(結果、入院不要)
- ⑨ 感染症患者さんへの隔離個室透析ベッドの作製
- ⑩ 入院治療が必要となった場合でかつ関連の石井病院での診療守備範囲と判断した場合に、小生自らが主治医として継続治療を行えるシステム構築
- ⑪ 日々変化する患者さんのその瞬間の透析除水目標体重と、やや長期的目標のドライウェイト、とを概念的に区別し、ダブルスタンダードシステム採用での至適除水設定システム構築
- ⑫ 週3回透析にこだわらず、必要な患者さんへは採算度外視の週4回透析施行
- ⑬ 無駄な投薬の徹底排除を目指した定期処方薬の持続的反复的微調整(結果、至適薬剤投与)
- ⑭ 血中カルシウム、リン、副甲状腺ホルモン値の厳重な管理(透析年間経過表作製での3次元把握)
- ⑮ 面でも線でもなく点でとらえるピンポイント血管穿刺技術の構築及び伝道
- ⑯ 悪の根源、止血ベルトの徹底廃止方向へ、結果、労をいとわぬ用手的止血の普及(当たり前)
- ⑰ 希望された患者さんへの透析中の運動療法確立(運動療法士、秋山さんに御尽力いただきました)
- ⑱ 胸部レントゲン紙印刷配布での患者さんへの情報提供(結果、塩分水分自己コントロールの改善)
- ⑲ 全患者さんの6か月ごとのSPP測定、3か月ごとのインボディ測定(至適ドライウェイト設定)、1~4か月ごとのシャント血流エコー測定(結果、シャント閉塞前の対処可能に)
- ⑳ 皮膚科専門医師招聘(週1回)でのフットケア(石井病院皮膚科堀江先生に御尽力いただきました)

概ね、以上のような項目でした。そしてこれらが、日々粛々と連日連夜、遂行されておりました。

自画自賛になりますが、内容的(質的)には、小生の経験上、過去最高レベルに到達できたと思われ、個人的にはやりきった感を強く感じております。辿り着いた感があります。量は結果であり目的ではありませんが、幸いなことに患者さんの数も3年前に比して31パーセント増加、となっておりまして、今後も3年かけて構築したこの誇れるシステムを粛々と継続展開してまいる所存です。

今年度もいよいよ始まりましたが、皆様からのご指導ご鞭撻を真摯に受けとめ、全職員と手を取り合い、またより優れた透析治療を目指して努力し続ける所存ですので、今後とも宜しくお願い致します。

■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00~12:00 14:00~17:00
土曜 9:00~12:00
担当 酒見 古門 上野

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<http://jinkeikai-group.or.jp/ishii/>